

むかご第8巻2号(1992)pp.10~31に掲載(復刻)

むかご第8巻2号退職記念号(1992) pp. 10-31に掲載された「尾崎先生の思い出」のうち、以下の方々の記事を復刻いたしました。

出逢い・水無溪谷	牧野 恭次
尾崎先生の思い出	井出 通子
尾崎先生の思い出	荘司 宏明
思い出すままに	渡辺 正之
お世話になって12年	柄澤 朋暢
尾崎先生のこと	和田久美子

出逢い・水無溪谷

牧野 恭次

1) 出逢い

すでに30数年前のことになる。当時、高校生であった私は、生物部に入っていた。生物部の活動は人数こそ少ないが一人一人が異なった特徴をもち、鳥の専門家、草の専門家などがいた。放課後はそうした趣味の異なる部員が生物室に集まって来ては、自由に楽しく雑談していた。

また池上先生が標本整理をされている時には、そのまわりを取り囲むようにして集まっては、植物のいろいろな話を聞き、視野を広げた。

先生はお忙しい時間を過ごされているにもかかわらず、訪問客を心からもてなしていた。客の大部分は植物を研究されている学者や研究家が多く、きまってリュックや大風呂敷に植物標本を抱えていた。先生は来客を大事にし、親切に一枚一枚標本をめくりながら助言を与えていた。尾崎先生もその有能な来客の一人で、池上先生の弟子であることを知った。杵差岳の植物を調査されている鳥屋野中学校の尾崎先生ですよ、と池上先生に紹介された時、地学の大里先生とよく似ている人だなあと感じたのは、私一人ではなかった。尾崎先生は私達に気軽に声をかけてくれたり、質問をすると解かり易く、優しく説明してくれるので、すぐに親しくなった。その後、先生のオートバイやボンコツ車(当時はまだめずらしかった。)に乗せていただいては、新潟周辺の植物採集に連れて行ってもらったりした。タカジョウをはき、旧日本軍の巻脚半を脚に巻きつけて植物採集をされている尾崎先生の姿は、30年前とはあまりかわってはいない。

2) 水無溪谷

昭和37年春に、八海山のふもとにある大和町の小さな中学校に赴任した。自然に恵まれたこの環境の中で、シダの勉強をしようという気持ちになり、放課後数名の生徒を連れてはあちこち歩いた。

時には、秘境地とされる水無川上流まで足を進め、シダ植物の生態を観た。こんな私の行動を見ていた川崎静治先生(当時の東中学校長)は、飯塚計作先生(大和町教育長)の心を動かし、1年間の植物調査の後で、是非まとめてほしいとの要望を出された。到底私一人で調査したりまとめる能力はないので、さっそく、池上先生に相談したら、尾崎先生をお願いしたらどうかと言うことになった。尾崎先生からも心よく引き受けていただいて”越後駒ヶ岳、水無溪谷の植物”の作成に着手した。調査計画から始まってまとめ、分担、折衝、印刷など思いもよらない問題が次から次へと出現したが、尾崎先生の手腕で何事もスムーズに事が進められていった。私一人だったら、途中で投げ出していたことだろう。そして、ついに昭和42年1月に大和町教育委員会で出版した。私にとっては処女作であり、忘れられない記念すべき出版物となった。私の本棚には、橙色の表紙の処女作が並んでいるが、尾崎先生のご苦勞と費やされた時間が思い出され、名ばかりの私の名前が恥ずかしく思われてくる。出版後、我々が調査した地域は県の指定地(県立自然公園)に定まり、間もなく幅広い道路が魚止め滝までのびて、当時の面影は全く消滅してしまった。この現状を見て私は、はたしてこの出版物がもたらしたものはいったい何だったのだろうか? 何度反復しても、良い答は見いだせない。尾崎先生も深くこのことを嘆いておられた。

尾崎先生の思い出

井出 通子

尾崎先生ごくろう様でした。そんなお年だなんてまったく思っていませんでしたので驚いています。

先生の思い出その1.

「天神社(妙高高原町)のイタヤカエデとの出合」

先生からこの別刷をかなり昔にいただきました。妙高高原町は私にとってほとんど毎週通勤の通り道です。見に行こうと思えばすぐにも行けたはずなのですが、国道18号線でスギが立ち並んでいて神社らしきところが4ヶ所もあるのです。そんなわけで何年か過ぎてしまいました。ある時、天然記念物の大杉を見に行こうということになり、大